【43】雨乞い

用水路やダムなどの農業用水のインフラ整備が不十分な時代には、農民は水害もさることながら、日照りと渇水に悩まされ、神仏に祈るしか方法がありませんでした。“雨乞い”の神事やお祭りが盛んに行われていたのです。

現代では、農業用水インフラの整備により渇水が大巾に減少しているので、雨乞いもだんだん行われなくなってきているようです。

昭和 53 年（1978)、九州の福岡市一帯が、一年以上続くことになる大規模な渇水に見舞われました。騒ぎが一段落してから、建設省の外郭団体のシンクタンクが、福岡渇水の社会的影響について調査し、レポートをまとめました。それを読んでいたら、渇水が深刻な段階になったときのメルクマールに、“市町村長が公費で雨乞いの神事を行っても、住民やマスコミから文句が出ない。”というのがあり、申し訳ありませんが、思わず吹き出してしまいました。

“苦しい時の神頼み”とはよく云ったものです。